洋式灯台への進歩を促した海難事故とカンテラ灯台

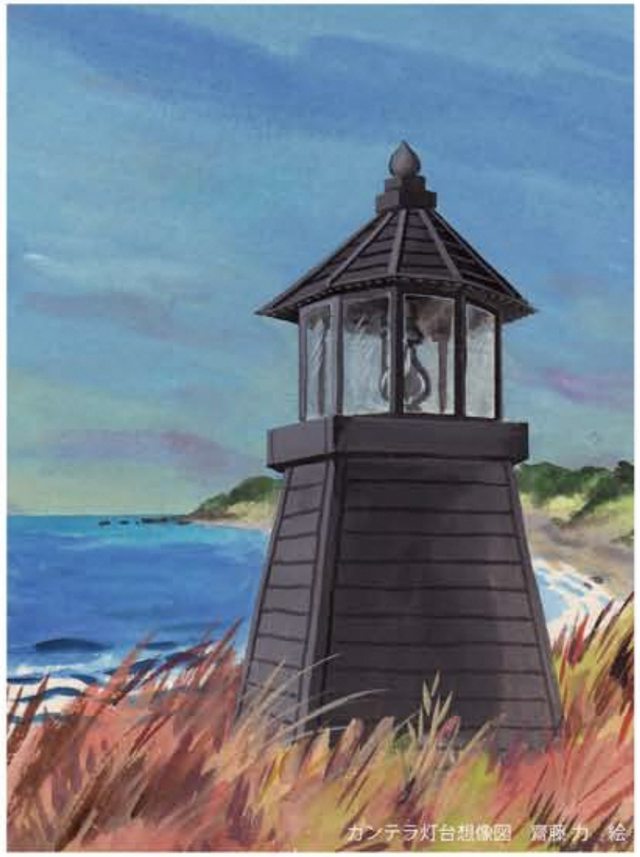
鳥取藩の軍艦「乾坤丸」難破の絵図

軍艦遭難事件を経てカンテラ灯台を新造

御前崎沿岸での座礁事故の記録

江戸時代の御前崎の海を236年にわたり見守ってきた見尾火灯明堂でしたが、暴風雨の時には役割を果たすことができず、時代が進むに連れ、増える船の安全を保つには不十分な状況となっていました。

明治維新後の明治４年（1871）２月鳥取藩の軍艦「乾坤丸」が、御親兵200余人を乗せて東京に向かう途中、濃霧のため尾高暗礁に座礁しました。この事故もあり、見尾火灯明堂に変わり、カンテラ灯台が建設されました。



カンテラ灯台想像図　齋藤力　絵

洋式灯台の出現により短期間で役目を終える

カンテラ灯台は、洋式灯台に似た形で、高さ２間４尺（約4.3m）、横幅１間２尺（約2.2m）の板製、灯室は八角のガラスの構造となっています。１夜の灯油量は２升。洋式灯台建設中の期間は崖の中腹に移転して使用されました。

カンテラとは、提灯または灯台を意味するポルトガル語のcandela（カンデラ）や、オランダ語のkandelaar（カンデラール）に由来する名称です。

壺の部分に油を入れ、張り出した口の先まで芯を通して使う構造により、当時、一般的であった灯明皿に比べ油がたくさん入り、長い時間灯りを灯すことができます。

御前崎にまつわる遭難事故の記録

天保３年（1832）10月
豆州三宅島阿古村漁船新右衛門船

船頭（不明）　乗組員（船頭水主共10人）

天保３年８月29日　釣り漁のため同古村を出帆
同日　昼八ツ時頃（午後２時頃）、俄かに東北風が強まり船容由さかず
９月１日　漂流しながら釣り入れた艇を捨てる
同日　暮六ツ時頃、御前崎村より助け舟により上陸
（沢部忠三郎氏寄贈 御前崎町教育委員会所蔵）
沢部家所蔵文書

天保15年（1844）12月
尾州知多群半田浦清三郎船

清蔵船頭（清三郎）
乗組員（船頭水主共14人）
積荷（種粕、〆粕、綿、綿実、苦竹（むしろつつみ）、明礬、魚油）
11月２日　半田を出帆（江戸廻しの請荷物）
15日　江戸川へ入津
12月４日　品川沖を出帆（築堀の碇、種粕、〆粕、綿、綿実）
同日、浦賀港へ入津（逼所にて御改を受ける）
８日　同所を出帆
９日　豆州下田港へ入津
10日　同所を出帆
同日、御前崎まで登るが西風になり子浦まで乗下る
11日　豆州子浦沖（この頃より北風になる）
12日五ツ時頃、西北風が強くなり碇み荷捨てる
同日七ツ時頃、水船になり船内にて御前崎浜へ上陸
（沢部忠三郎氏寄贈 御前崎町教育委員会所蔵）
沢部家所蔵文書

嘉永元年（1848）９月
紀州牟婁群古座浦次郎兵衛船

唐船船頭（次郎兵衛）　乗組員（船頭水主共６人）
積荷　杉丸太・米・大豆・小麦など
８月20日　古座浦を出帆
23日　勝州御影へ入津
同日　同所出帆（便船者１人乗る）
26日　夜五ツ時（午後８時）、紀州潮之見崎（潮岬）にて北風になり元船水船になり碇（はしけ）に乗り移り漂流
９月１日　夜九ツ時（午前０時）、御前崎へ上陸
下村家所蔵文書

嘉永３年（1850）３月
日向国那珂群飫肥油津平蔵船

沖船頭（船名）　乗組員（船頭水主共14人）
積荷　武家諸荷　紀伊家御用荷（鯣〆粕、干鰯）　商人積荷（干鰯）
１月20日　江戸品川沖を出帆
２月10日　紀州此井鼻沖にて難風に遭う
15日　南風強く昼八ツ時（午後２時）午前帰磯に乗り当てる
松林家所蔵文書

嘉永３年（1850）５月
讃岐国三野群塩飽牛嶋平右衛門船

沖船頭（徳太夫）　乗組員（船頭水主共16人）
積荷 長崎御用積荷（干鮑、昆布、鰹（ふかひし、鰹（まず）〆粕、干鰯、寿海苔など）
嘉永２年10月10日　松前国箱館を出帆（長崎へ向かう）
嘉永３年正月７日　御前崎沖にて難風に遭い一部の荷物を投げ捨て下田へ
２月１日　下田へ入津（取り調べを受ける）
３月16日　下田湊を出帆（不足の荷物を積み入れる）
同日、子浦湊へ入津（日和待）
４月10日　同所を出帆（夕七ツ半（午後５時）頃逆風になり乗り戻す）
11日　晩七ツ半（午前４時）頃、御前崎磯に乗り当てる（松林正徳氏所蔵）
松林家所蔵文書

文久２年（1862）正月
摂州大坂安治川一丁目吉田屋亀之助船

沖船頭（益十郎）　乗組員（船頭水主共16人）
積荷（一橋家御囲米、播磨国の村々年貢米）
文久元年12月９日　大坂井口を出帆（風向き悪く10日より１月３日まで同国一の谷沖に沙乗り）
文久２年１月３日　播州高砂湊に入津（日和待一橋家諸荷積み込む）
13日　未上刻、同所を出帆（兵庫沖にて沙乗り）
16日　明六ツ時（午前６時）、兵庫沖を出帆
19日　朝四ツ時（午前10時）、志州安乗湊へ入津
20日　同所を出帆するも風向き悪く21日に同所へ戻る
23日　同所を出帆（朝五ツ時（午前８時）頃）
同日、志州的矢湊へ入津（日和待）
27日　同所を出帆（朝四ツ時（午前10時）するも荒波ゆえ東口で沙乗
28日　同所を出帆（四ツ半頃）
同日、遠州御塩浜あたりから強風増し、
艀舟（はしけ）にて上岸浜へ
松林家所蔵文書

御前崎灯台を守る会 監修 2021年 作成